

多摩川ふれあい教室 体験学習会「多摩川博士になろう！」(2022年度) NPO法人多摩川センター

活動日	活動名称	活動概要
2023年 4月23日	多摩川博士になろう！PART202 多摩川がつくったまち・府中を歩く 新緑の浅間山・雑木林をたずねる	大昔に多摩川がけずり残した台地の名残ともいわれ、武蔵野の面影を残す浅間山。この時期は、かつて農用に使われていたナラやシデなどの落葉樹の雑木林の林床には、ここでしか自生していないユリ科の植物ムサシノキスゲなどの野草や野鳥が見られる。新緑の浅間山・雑木林をたずねる。 講師：吉田 誠(植物研究者・NPO多摩川センター研究員)
5月14日	多摩川博士になろう！ PART203 多摩川・初夏の鳥たち	新緑の季節の郷土の森博物館周辺や多摩川の河川敷を歩きながら、繁殖の時期にある夏鳥を中心とした鳥類や植物などを観察し、種類やさえずりといった生態、特徴などととも、観察を通じて、府中の多摩川の自然環境について学習する。 講師：大塚 豊(NPO多摩川センター研究員・自然写真家)
6月25日	多摩川博士になろう！ PART204 変わりゆく多摩川中流域 (府中市郷土の森博物館「自然観察会」との合同開催)	多摩川の中流域に位置する府中は、歴史やまちの成り立ち、現在の暮らしにも多摩川が深く関わっている。季節の移ろいや洪水など自然の営み、地域の暮らしとともに常に表情を変える多摩川。ふだんにしている景色のなかにも、水の利用や災害に対する備え、自然とのふれあいなど、さまざまな人の関わり、変わりゆく多摩川の姿を見ることができる。そのような視点から多摩川を歩き、眺めてみる。講師：山道省三(NPO多摩川センター)
7月16日	多摩川博士になろう！ PART205 夏の多摩川・川の安全教室(水中観察と川流れ体験)	ライフジャケット、ゴーグルなどをつけて、水中観察や川の流れを体験する。夏の水遊びシーズンを迎え、身支度、熱中症やけがの予防など野外活動で気をつけなければならないことや、水難事故対策についても親子で学ぶ。 講師：山道省三(NPO多摩川センター)
8月20日	多摩川博士になろう！ PART206 多摩川の流れで生きもの探し	多摩川の岸辺の小さな流れや伏流水、溜まりのある場所は、水の中の小さな生きものの「すみか」や逃げ場所にもなっている。どんな所にどんな生きものがいるのか、水辺で探して観察する。身支度、ライフジャケットの着用など、夏の水辺の活動で気をつけなければならないことも一緒に学ぶ。 佐山 公一(みずとみどり研究会、NPO多摩川センター研究員)
9月24日	多摩川博士になろう！PART207 多摩川むしむしウォッチング (府中市郷土の森博物館「自然観察会」との合同開催)	郷土の森博物館付近の多摩川の河原などの草むらには、この時期、さまざまなバッタや鳴く虫たちが見られる。虫たちはどんな所にいるのか、つかまえた虫がどんな姿をしているのか、どのように鳴いているのかなど、観察、学習する。 講師：立川周二(元東京農業大学教授・昆虫生態)
10月22日	多摩川博士になろう！PART208 多摩川を知って水害にそなえよう	近年、豪雨や台風などにより、各地で水害や土砂災害が起きている。多摩川に出て周辺の地形や河川管理施設などを見学しながら、府中周辺の地形や「まち」のなりたち、「ふだんの川」と「洪水のときの川」について学ぶ。多摩川がどんな川かを知ることで災害に備え、情報の集め方やいざという時の命を守るための行動についても学習する。 講師：堀越 直哉(国土交通省京浜河川事務所 河川環境課)
11月19日	多摩川博士になろう！PART209 多摩川がつくったまち 府中を歩く ～秋深まる青柳崖線と湧水をたずねる～	府中崖線沿いにある谷保天満宮(国立市谷保)より分岐し、多摩川向かって張り出す青柳段丘。この段丘の崖(青柳崖線)沿いを歩き、昔の多摩川がつくった「ハケ」や「ママ」と言われる崖、樹林地や農地など、周辺の景観をながめながら、崖下の有名な湧水地や用水につながる流れを訪ねる。 講師：吉田誠(NPO多摩川センター研究員・植物研究者)・山道省三(NPO多摩川センター)
12月17日 23日 ※2日間の時間 制で実施	多摩川博士になろう！PART210 手づくりのお正月飾りに チャレンジ！	稲わらのしめ飾りをベースに、自然素材などを使って飾りつけ、色紙に墨で描いた絵や書なども添えて、オリジナルのお正月飾りを作る。伝統的な「和」の形に自分だけのアイデアを加えて表現する。 講師：宮田温子・小林いづみ・小林俊介(多摩川センター研究員、多摩川ふれあい教室運営スタッフ)・塚かなえ(多摩川センター)
2024年 1月28日	多摩川博士になろう！PART211 多摩川へ冬の野鳥に会いに行こう！	冬の季節は、川や水辺でカモ類などの冬鳥や、この時期に特に目にする鳥の姿がある。葉が落ちて、野鳥観察の好シーズン、郷土の森博物館の周辺や多摩川で鳥のようすを観察し、生態なども学習する。 講師：大塚 豊(NPO多摩川センター研究員・自然写真家)
2月18日	多摩川博士になろう！PART212 多摩川の水利用と大丸用水堰 ～多摩川の水はどう使われてきたか～	流域の都市化の進展で生活排水など大量の下水が流れ込み、「泡だつ多摩川」と表現されていた時期もあった多摩川は、下水道の整備、高度処理等によって水質が一定程度改善されている。府中地先の多摩川では、緊急治水対策として大丸用水堰の改築工事が再開している。その様子を眺め、地形や防災、多摩川の水がどう使われてきたか、用水堰のことなど、博物館近くの多摩川沿いを歩きながら学ぶ。 講師：堀越直哉(国土交通省京浜河川事務所 河川環境課)
3月3日	多摩川博士になろう！PART213 早春の大丸用水をたずねる ～稲城の大丸用水と多摩川の地名をたどる～	大丸用水は、多摩川の大丸用水堰から取水、右岸の稲城市、川崎市多摩区の農地をかんがいつる目的で江戸時代に開削された。丸くて広い土地を意味するとされる「大丸」地域は、府中から、是政、常久、押立、矢野口の4箇所に渡し場がある要衝であり、「多摩川梨」や砂利採集で栄えた土地でもある。大丸用水堰から早春の大丸用水沿いを歩き訪ねる。 講師：山道省三(多摩川センター) 吉田誠(NPO多摩川センター研究員・植物研究者)